

國學院大學學術情報リポジトリ

「ヤンバル」についての意識と実態：
観光客実態調査および^{*)} 計量テキスト分析を用いて

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-02-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 大谷, 健太郎, 伊藤, 孝行, Otani, Kentaro, Ito, Takayuki メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/00000446

「ヤンバル」についての意識と実態

—観光客実態調査および計量テキスト分析を用いて—

大谷健太郎・伊藤孝行

1. はじめに

「ヤンバル」は固有名詞でありながら、その指し示す意味範囲が変動し得ることばである。伊藤・大谷（2017）ではヤンバルということばをとりあげ、主要文献での説明内容の整理に加え、住宅地図での使用状況、住民の認識および生活行動という三種の調査結果を報告した。これらの研究から、「ヤンバル」ということばが指し示す意味範囲にゆれがあることが明らかになった。

しかし、「ヤンバル」ということばの使用実態や、「ヤンバル」に対する人々の認識については継続的な調査研究および発展的研究が必要である。本研究は、伊藤・大谷（2017）の続考である。

まず、「ヤンバル」ということばが指し示す意味範囲において、人々の意識に関する継続的な調査研究として観光客の意識を明らかにした。北部広域市町村圏事務組合と筆者らが実施した観光連携事業の調査では、沖縄県北部12市町村における観光客の意識や行動という観光実態を明らかにするためのWeb調査を行っている。そこで、地域連携の基礎となる「ヤンバル」が指し示す範囲の認識や情報取得源に関する質問を抽出し、観光客の意識と住民意識との比較分析を行うことで両者の認識差を明らかにした。

次に、「ヤンバル」の今についてもう一つの視座から新たな調査を行った。「ヤンバル」ということばは、現在どのような位置づけがなされているのだろうか。「ヤンバル」ということばと共に起ることばはどのようなことばなのか。「ヤンバル」ということばの現在を見出すべく、琉球新報および沖縄タイムス2紙を資料とし、見出しおよび記事本文の中に使用された「ヤンバル」ということばを含む記事をすべて抽出し、実態を調査した。前述2紙において、ひらがな表記（「やんばる」）・カタカナ表記（「ヤンバル」）・漢字表記（「山原」）・アルファベット表記（「yanbaru」「yambaru」）をキーワードにし、「ヤンバル」ということばがどれくらい使用されているのかについて計量テキスト分析を用いて調査した。

本研究では、伊藤・大谷(2017)と同様に学際的なアプローチを試みる。2016年9月、沖縄県の「ヤンバル」に国立公園が誕生し、その範囲の一部はUNESCO世界自然遺産候補地「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」の沖縄島北部に該当するとされている。2018年4月現在、世界遺産登録が推進されている今、「ヤンバル」について複眼的な視座からのアプローチによって「ヤンバル」へのさらなる理解が必要である。人々が持つ「ヤンバル」の認識に加え、「ヤンバル」ということばの使用状況を明らかにすることは国語学のおよび観光政策論的にも意義があるといえるだろう。

繰り返しになるが、本研究では「ヤンバル」という固有名詞の実態、すなわち、ことばの使われ方や性格、観光客の認識などの実態を考察する。

2. 先行研究

2.1. 「ヤンバル」の記述と実態

伊藤・大谷(2017)は、沖縄の地名や歴史、文化に関する辞典・事典等の先行研究を整理し、住民意識や生活行動に関する調査結果を用いて「ヤンバル」という名称について分析した。辞典・事典等からは「北部12市町村」、「北部地域の別名」、「恩納以北の地域」など「と思われる」という曖昧な固有名詞であり、「ヤンバル」ということばが指し示す意味範囲にゆれがあることが明らかになった。その結果を表1に整理する。

表1 「ヤンバル」ということばが指し示す意味範囲のゆれ

調査、分析	対象	結果：「ヤンバル」の範囲
文献調査	辞典、事典など	曖昧さ（～と思われる）
住民意識調査	沖縄県民（一部に観光客）	名護以北
建物名称による空間的認識	ゼンリン住宅地図	国頭・大宜味・東
生活行動調査	北部12市町村の住民	名護以北

出所：伊藤・大谷(2017)を加筆・修正し、引用作成

辞典・事典等の記述からは「北部12市町村」、「北部地域の別名」、「恩納以北の地域」など「と思われる」という曖昧さの含まれる説明であり、また、住民意識や生活行動に関する調査から「名護以北」や「国頭3村」、「恩納村および金武町は中部圏域の生活圏」ということが明らかになった。

また、政策科学の見地に基づく考察では、近年の広域的な地域連携による観光政策は連携の前提である地域範囲があいまいな状態では大きな連携効果を期待することができない可能性が示唆された。

2. 2. 「ヤンバル」が指し示す範囲に関する記述

盛口・宮城（2017）は、『やんばる学入門』の冒頭で「やんばるとはどこか」について考察を行っている。そのなかで使用される「ヤンバル」が指し示す範囲を定義づけるため、3つのバリエーションを想定している（表2）。

表2 盛口・宮城（2017）による「ヤンバル」

	定義	範囲
1	個々のイメージ	ばらばら
2	歴史的な定義	琉球王朝時代には恩納以北
3	生物相に注目した定義	塩屋湾以北

出所：盛口・宮城（2017）p.16を加工し、引用作成

盛口・宮城（2017）は「森の生き物」に着目していることから、地域固有の生物が多く生息する境界である大宜味村の塩屋湾以北という生物相に基づく定義を採用している。盛口・宮城（2017）における個々のイメージでは、ヤンバルクイナや知らないという記述があり、沖縄島の白地図で問題を出すと「かなりばらばら」の回答が得られたようである。この点では伊藤・大谷（2017）の知見とも一致しており、建物名称による空間的認識でのS-Tライン、すなわち大宜味村の塩屋湾と東村の平良を結ぶ線の北側である国頭村・大宜味村・東村を「ヤンバル」とする考え方である。

また、山里（2016）は『沖縄大百科事典』をもとに「ヤンバル」の意味を考察している。首里や那覇からみた辺境（edge）、すなわち海と山ばかりの土地で中心から離れた「未開」だった地域から、自然に対する価値観の大転換によって最先端（cutting edge）へ意味が変容してきていると述べている。

3. 観光客が認識する「ヤンバル」

3. 1. 調査の概要

2012年度から北部広域市町村圏事務組合は「やんばる観光連携推進事業」を推進しており、5か年事業の最終年度にあたる2016年度には観光客のニーズ把握および経済効果分析を行っている。筆者らが共同調査研究者として分析の中心を担い、北部地域を訪れた観光客の実態と経済効果を中心とした地域経済における観光産業の位置づけを明らかにした。観光客実態調査では北部12市町村地域での消費額や観光目的、観光資源および観光施設の認知度と関心度、「ヤンバル」の認知度などのアンケートを行った。それらの報告書は北部広域市町村圏事務組合（2017）として取りまとめられ、本発表では観光客実態調査から「ヤンバル」の認知度、認識する範囲、「ヤンバル」という名称の情報源に関する部分を抜粋し

考察を行う。

また、調査方法はWeb調査の手法を採用⁽¹⁾している。調査目的がモニターに伝わらないように趣味・旅行に関するアンケートと称し、20,000回答からのスクリーニングによって北部地域への訪問経験がある回答を800サンプル、年齢の均等を考慮した形で最終的には825票の有効票を回収した。

以下、北部広域市町村事務組合（2017）における観光客実態調査結果を引用参照しながら、結果が示す意味の要点を整理したい。

3. 2. 観光客の認知度

観光客の「ヤンバル」認知度を尋ねる設問『「やんばる」という地域名称をご存知ですか?』では全体の76.6%が知っていると回答した(表3)。以後の分析は、表3で「知っている」と回答した632名への質問となる。

表3 観光客の認知度

ヤンバルの認知度	回答者	割合
知っている	632	76.6%
知らない	193	23.4%
全体/合計	825	100.0%

出所：北部広域市町村圏事務組合（2017）

3. 3. 観光客が認識する「ヤンバル」の範囲

観光客が認識する「ヤンバル」の範囲を尋ねる設問『「やんばる」を指す地域はどの範囲とお考えですか?』では、現在の行政範囲としての北部12市町村、すなわち沖縄島北部地域の回答は27.7%であり、もっとも多い回答は国頭村・大宜味村・東村である本島最北部で40.5%という結果になった(表4)。

表4 観光客が認識する「ヤンバル」の範囲

ヤンバルを指す地域の範囲	回答者	割合	合計
恩納村周辺地区より北	110	17.4%	27.7%
北部離島を含む恩納村周辺地区より北	65	10.3%	
本部半島を含む名護市より北	134	21.2%	31.8%
北部離島と本部半島を含む名護市より北	67	10.6%	
本当最北部	200	31.6%	40.5%
北部離島を含む本当最北部	56	8.9%	
全体/合計	632	100.0%	100.0%

出所：北部広域市町村圏事務組合（2017）

回答の選択肢となる範囲の区分は調査実施団体である北部広域市町村圏事務組合の意向もあり、伊藤・大谷（2017）で記述した住民意識調査の回答区分と統一はできなかった。しかし、インターネット上で沖縄島の地図を示した回答方式であり、離島が別途明記されているが範囲に差異はなく問題はないと考えられる。

3.4. 認知の情報源

「ヤンバル」という地域名称を知った情報源を尋ねる設問『どのような情報源から知りましたか？例：テレビの旅行番組など』では、テレビ番組やニュースといったマスメディアが47.2%と最も多いことが分かった（表5）。

「ヤンバル」を知った情報源はテレビや新聞などのマスメディアが最も多く、次いでガイドブックや雑誌などの紙媒体が多いことが分かった。情報検索のプロセスとしては、認知した後にSNSを含むインターネットで詳細に調べる傾向があるので、認知の情報源としてのインターネットは13.0%で比較的割合が低い結果となっている。

「ヤンバル」を指す地域の範囲を認知した情報源では、どの範囲もほとんど同じ結果となり、情報源の差異が認識する範囲の回答率に及ぼす影響は少ないと考えられる。

「ヤンバル」を指す地域の範囲として、歴史的定義および現在の行政地域である範囲ではない回答率が70%を超える結果となったが、情報源のテレビやニュースでは地域範囲に関する詳細な説明を正確に認識できないことが推測される。また、回答率が高かった国頭村、大宜味村、東村の沖縄島最北部は自然の分布や生物の生息において固有性が高く、マスメディアは3村の自然や生物を取り上げる際に「ヤンバル」の名称を使用していることも伺える。盛口・宮城（2017）で述べられているように、定義は地域固有の生物が多く生息する境界を大宜味村の塩屋湾以北と定めていることから、生物相に注目したテレビ番組やニュースなどでは「ヤンバル」の範囲を国頭村、大宜味村、東村の地域としていることが考えられる。

表5 「ヤンバル」という地域名称を知った情報源

ヤンバルを指す地域の範囲	回答	割合	合計
1. 沖縄のガイドブック・旅行誌など	232	36.7%	37.0%
2. 北部地域のパンフレットなど	2	0.3%	
3. 沖縄関係のホームページ	3	0.5%	13.0%
4. SNSを含むインターネット	79	12.5%	

5. テレビ番組 (内容の詳細不明)	209	33.1%	47.2%
6. テレビ番組 (旅行番組、沖縄関係の特集)	63	10.0%	
7. テレビ番組 (バラエティなど)	18	2.8%	
8. ニュースや新聞、ラジオ	18	2.8%	
9. ヤンバルクイナ	51	8.1%	8.1%
10. 知り合いから聞いた	32	5.1%	14.1%
11. 現地で見た・聞いた	48	7.6%	
12. 添乗員などの説明	9	1.4%	
13. 覚えていない	25	4.0%	5.1%
14. 無回答	7	1.1%	
15. その他	24	3.8%	3.8%
全体632名／複数回答	810	100.0%	100.0%

出所：北部広域市町村圏事務組合 (2017)

3.5. 住民意識との比較および考察

次に、伊藤・大谷 (2017) で考察した住民の認識と、表3で示された観光客が認識する「ヤンバル」の範囲に関する比較を行う (表6)。

設問の区分と表現に多少の差異があるとはいえ、回答割合の結果から住民の認識と観光客の認識は「本島最北部」「国頭・大宜味・東3村」で大きな認識差がみられた。「ヤンバル」が指し示す範囲は明らかに観光客と住民との認識で異っており、地域を表す固有名詞としてはあまりに機能不全であるといえる。

表6 住民と観光客が認識する「ヤンバル」の範囲

ヤンバルを指す地域の範囲	観光客	住民	※住民
恩納村周辺地区より北	27.7%	40.5%	39.2%
北部離島を含む恩納村周辺地区より北			
本部半島を含む名護市より北	31.8%	49.6%	48.0%
北部離島と本部半島を含む名護市より北			
本当最北部	40.5%	9.9%	9.6%
北部離島を含む本当最北部			
全体／合計	100.0%	100.0%	96.8%

※ (住民) は調査実際の数値で、無回答を含むものである。

出所：伊藤・大谷 (2017)、北部広域市町村圏事務組合 (2017)

4. 「ヤンバル」の記述に関する計量テキスト分析

4.1. 分析方法の概要

「1. はじめに」に記したとおり、沖縄で発行されている新聞2紙を資料とし、「ヤンバル」ということばの実態に迫りたい。伊藤・大谷(2017)で指摘したとおり、辞典・事典等に記されている「ヤンバル」の記述をみると、「ヤンバル」の意味する範囲は定まっていない。「ヤンバル」について記述のある新聞2紙の使用実態を明らかにすることによりこれまでの辞典・事典等に記されている「ヤンバル」の意味範囲との共通点および相違点を見出す端緒としたい。「ヤンバル」のある、いわゆるウチの視点から「ヤンバル」ということばがどのように使用しているのかを通時的に調査する際、この2紙がウチの視点から発行されているメディアであるということ、そして「ヤンバル」ということばを継続的に使用しているということから本稿の調査対象として適しており、調査対象資料とした。

「ヤンバル」ということばの現在を見出すべく、琉球新報および沖縄タイムス2紙を資料とし、見出しおよび記事本文の中に使用された「ヤンバル」ということばを含む記事をすべて抽出し、実態を調査した。前述2紙において、ひらがな表記(「やんばる」)・カタカナ表記(「ヤンバル」)・漢字表記(「山原」)・アルファベット表記(「yanbaru」「yambaru」)をキーワードにし、「ヤンバル」ということばがどれくらい使用されているのかについて計量テキスト分析を用いて調査した。

資料について、2紙のインターネットによる記事データベースを使用した。琉球新報データベースは1998年1月4日から現在まで収録されており、沖縄タイムスは1997年1月1日から現在まで収録されている。収録開始時期の約1年の違いを考慮し、2紙ともに1998年1月1日から2016年12月31日までを調査・分析の対象期間とした。

調査方法については、考えられ得る「ヤンバル」の表記の全種類を検索語とした。すなわち、ひらがな表記の「やんばる」・カタカナ表記の「ヤンバル」・漢字表記の「山原」・アルファベット表記の「yanbaru」「yambaru」5種である。

4.2. 琉球新報・沖縄タイムスにみる「ヤンバル」の記事数・文字数・使用率

「ヤンバル」ということばがある記事の記事数、その記事の文字数の合計、表記の種類別の「ヤンバル」の数、100字あたりの各々の使用率は以下となった。

表7 琉球新報にみる「ヤンバル」の使用状況

年	記事数	文字数	やんばる	ヤンバル	山原	yanbaru	yambaru
1998	461	399789	542	163	182	0	0
1999	446	314803	554	153	204	1	0
2000	516	384459	716	192	173	1	0
2001	387	268844	516	170	102	0	0
2002	376	272333	519	160	83	3	0
2003	402	301342	544	218	74	0	0
2004	426	308570	398	420	84	2	0
2005	421	291927	382	367	163	3	0
2006	430	344644	510	294	160	1	0
2007	481	383675	651	364	75	0	0
2008	519	429780	696	376	73	4	0
2009	404	304911	493	224	55	0	0
2010	389	293777	514	199	50	2	0
2011	411	280388	637	225	54	2	1
2012	455	389662	654	221	71	0	0
2013	482	328252	673	189	58	4	0
2014	560	382978	761	164	46	1	0
2015	531	429178	729	133	49	2	0
2016	669	591188	965	195	79	6	0
合計	8766	6700300	11454	4427	1835	32	1.00
平均	461.37	352647.37	602.84	233.00	96.58	1.68	0.05
標準偏差	71.21	76095.97	135.34	84.71	50.26	1.66	0.22

表8 沖縄タイムスにみる「ヤンバル」の使用状況

年	記事数	文字数	やんばる	ヤンバル	山原	yanbaru	yambaru
1998	795	709579	723	266	264	2	0
1999	758	658972	759	253	274	0	0
2000	638	515316	650	219	230	0	0
2001	662	528804	692	263	230	1	0
2002	635	556276	709	226	166	2	0
2003	596	510891	682	225	169	0	0
2004	665	622119	719	422	148	1	0
2005	567	464775	592	318	215	0	0
2006	573	542180	633	434	181	1	0
2007	630	561346	764	427	134	0	3
2008	735	659909	977	339	188	0	1
2009	596	527609	749	398	156	1	0
2010	554	51699	649	230	171	2	0

2011	566	485674	754	274	125	1	0
2012	556	545526	676	253	144	2	0
2013	609	559122	663	309	157	0	0
2014	644	641590	826	277	146	0	0
2015	571	576685	681	255	122	2	0
2016	731	663402	973	297	117	6	1
合計	12845	11542083	14548	5958	3668	26	5.00
平均	642.25	577104.15	727.40	297.90	183.40	1.30	0.25
標準偏差	74.54	66911.74	97.59	68.51	55.77	1.62	0.70

表9 100字あたり「ヤンバル」使用率（左：琉球新報、右：沖縄タイムス）

年	記事数	文字数	ヤンバル	年	山原	yanbaru	yambaru
1998	0.14	0.04	0.05	1998	0.10	0.04	0.04
1999	0.18	0.05	0.06	1999	0.12	0.04	0.04
2000	0.19	0.05	0.04	2000	0.13	0.04	0.04
2001	0.19	0.06	0.06	2001	0.13	0.05	0.04
2002	0.19	0.06	0.03	2002	0.13	0.04	0.03
2003	0.18	0.07	0.02	2003	0.13	0.04	0.03
2004	0.13	0.14	0.03	2004	0.12	0.07	0.02
2005	0.13	0.13	0.06	2005	0.13	0.07	0.05
2006	0.15	0.09	0.05	2006	0.12	0.08	0.03
2007	0.17	0.09	0.02	2007	0.14	0.08	0.02
2008	0.16	0.09	0.02	2008	0.15	0.05	0.03
2009	0.16	0.07	0.02	2009	0.14	0.08	0.03
2010	0.17	0.07	0.02	2010	0.12	0.04	0.03
2011	0.23	0.08	0.02	2011	0.16	0.06	0.03
2012	0.17	0.06	0.02	2012	0.12	0.05	0.03
2013	0.21	0.06	0.02	2013	0.12	0.06	0.03
2014	0.20	0.04	0.01	2014	0.13	0.04	0.02
2015	0.17	0.03	0.01	2015	0.12	0.04	0.02
2016	0.16	0.03	0.01	2016	0.15	0.04	0.02

有意水準を5%として、二元配置分散分析による検定の結果、新聞の種類による「ヤンバル」の使用率は有意であるとは言えず（ $F=0.934$ 、 $P=0.581$ ）、表記の種類による使用率は有意な差（ $F=29.248$ 、 $P<0.001$ ）がある。

4.3. 琉球新報・沖縄タイムスにみる「ヤンバル」の使用頻度

次に、「ヤンバル」ということばの使用頻度について述べる。冒頭に述べたように、「ヤンバル」ということばは、固有名詞でありながら、その指し示す意味範囲が変動し得ることばである。それゆえ、単一のアプローチではなかなか実態

がつかみきれず、さまざまなアプローチからの実態を明らかにし、検討してゆく方法が有益であろう。ここでは、琉球新報・沖縄タイムスの「ヤンバル」ということばが含まれる全記事の文字列を対象とし、その記事中に使用されている頻度の高いことばを抽出した。

なお、頻度表作成にあたっては、R (Mac版、バージョン3.4.1) を使用し、RMeCabパッケージ (石田基広氏作成) を使用し、形態素解析を行った。形態素解析にあたっては国立国語研究所が公開・配布している解析用UniDicを使用し、解析用UniDicをRMeCabで使用できるように作成されたRMeCabUni ベータ (バージョン0.01、石田基広氏作成) を使用した。

表10 「ヤンバル」を含む記事全文を対象にした固有名詞頻度表 (上位20)

	琉球新報		沖縄タイムス	
1	沖縄	18920	沖縄	31633
2	名護	12810	名護	16535
3	やんばる	11454	那覇	15429
4	琉球新報	10857	やんばる	14548
5	那覇	5439	国頭	6311
6	国頭	4966	ヤンバル	5958
7	ヤンバル	4427	浦添	4684
8	米	2471	米	3985
9	日本	2321	琉球	3784
10	琉球	2210	日本	3607
11	比嘉	2083	宮城	3590
12	宮城	1988	山原	3527
13	浦添	1824	比嘉	3366
14	大宜味	1820	宜野湾	3075
15	山原	1783	大城	2611
16	大城	1727	玉城	2343
17	玉城	1597	今帰仁	2327
18	宜野湾	1409	大宜味	2077
19	今帰仁	1392	東村	1967
20	東村	1346	読谷	1878

2紙共に1位は「沖縄」、2位は「名護」であった。ひらがな表記の「やんばる」、カタカナ表記の「ヤンバル」、漢字表記の「山原」の順位はほぼ同様とみてよいだろう。ちなみに、伊藤・大谷 (2017) でとりあげた「北部」が使用された記事数は、琉球新報が28745、沖縄タイムスが42301であった。

4. 4. 琉球新報・沖縄タイムスにみる「ヤンバル」の共起語

「ヤンバル」ということばと共起することばの実態を調査した。「ヤンバル」ということばと共起することばの実態について把握することが目的ゆえ、共起することばの単位については形態素とし、共起することばの距離についてはもっとも共起の実態や特徴があらわれると推される前後1語とした。また、検索語と共起する度合いの強さをあらわす共起強度を調査した。共起強度を示す指標としてT (T score) とMI (Mutual Information) の2種があげられる。前者は「ヤンバル」ということばと高い頻度で共起することばに対して比較的高い値が出る傾向があり、後者は「ヤンバル」ということばと共起する頻度は低いものの、そのことばが使用されるときには高い割合で「ヤンバル」と共起する場合に高い値が出る傾向があるとされている。なお、本稿では「ヤンバル」ということばの実態を明らかにするための予備的調査であるため、共起強度のあることばとして記号や数字を除外せず、結果をそのまま掲載する。

表11 「ヤンバル」と共起強度のあることば（琉球新報、T値順位20）

T 値順	MI 値順	Term	Before	After	Span	Total	T	MI
1	56	の	51	123	174	159625	11.4869935	2.9526206
2	47	/	35	1	36	17097	5.5987735	3.9024736
3	59	で	28	14	42	47099	5.4574288	2.6629128
4	62	だ	22	0	22	33586	3.6821665	2.2178634
5	17	FC	0	13	13	1347	3.5529475	6.0989097
6	11	路	0	11	11	377	3.3006194	7.6950151
7	39	0	12	0	12	4405	3.2850508	4.2740404
8	68	が	26	0	26	67212	3.243006	1.4580127
9	13	産	0	8	8	618	2.7976616	6.5225411
10	61	から	9	1	10	14594	2.5124543	2.2828445
11	64	も	9	1	10	20860	2.2334497	1.7674807
12	30	動物	0	5	5	1130	2.1649115	4.9768252
13	38	づくり	0	4	4	1408	1.9008726	4.3345725
14	75	を	7	14	21	91279	1.7779029	0.7083262
15	24	残る	3	0	3	435	1.6966878	5.6140951
16	31	船	0	3	3	724	1.6731937	4.8791208
17	63	地域	0	4	4	6111	1.5697674	2.2168114
18	65	ある	5	0	5	11143	1.5343896	1.6720822
19	5	通い	0	2	2	10	1.4132179	10.4720761
20	7	舟	0	2	2	36	1.4106292	8.6240792

表12 「ヤンバル」と共起強度のあることば (琉球新報、MI値順上位20)

T値順	MI値順	Term	Before	After	Span	Total	T	MI
36	1)-	1	0	1	1	0.9998592	12.7940042
37	2	3434	0	1	1	1	0.9998592	12.7940042
38	3	FCFFC	0	1	1	2	0.9997184	11.7940042
39	4	したたる	1	0	1	3	0.9995776	11.2090417
19	5	通い	0	2	2	10	1.4132179	10.4720761
40	6	まばゆい	1	0	1	7	0.9990144	9.9866492
20	7	舟	0	2	2	36	1.4106292	8.6240792
21	8	創る	0	2	2	37	1.4105297	8.5845508
42	9	険しい	1	0	1	26	0.996339	8.0935644
43	10	寂しい	1	0	1	30	0.9957758	7.8871136
6	11	路	0	11	11	377	3.3006194	7.6950151
44	12	生い茂る	1	0	1	41	0.994227	7.4364522
9	13	産	0	8	8	618	2.7976616	6.5225411
45	14	再現	1	0	1	82	0.9884539	6.4364522
46	15	なくす	1	0	1	100	0.9859194	6.150148
47	16	彩る	0	1	1	103	0.985497	6.1075036
5	17	FC	0	13	13	1347	3.5529475	6.0989097
48	18	司会	1	0	1	110	0.9845113	6.0126445
23	19	駆除	0	2	2	225	1.3918115	5.980223
49	20	阿嘉	0	1	1	127	0.9821176	5.853195

表13 「ヤンバル」と共起強度のあることば (沖縄タイムス、T値順上位20)

T値順	Term	Before	After	Span	Total	T	MI
1	の	78	168	246	287636	13.31143333	2.724573235
2	で	39	17	56	74305	6.198508578	2.542126706
3)	24	21	45	106789	4.648362165	1.703393031
4	だ	32	1	33	61109	4.368108323	2.061240324
5	0	20	0	20	4419	4.344279517	5.128367336
6	路	0	19	19	1029	4.328353097	7.156843703
7	が	33	5	38	108414	3.888755096	1.437679425
8)▼	18	0	18	14543	3.799102161	3.257831172
9	FC	0	14	14	1202	3.700089873	6.492077198
10	も	18	3	21	38906	3.484023914	2.060555838
11	へ	0	14	14	9251	3.421739693	3.54790477
12	/	13	2	15	14047	3.40368227	3.044859624

13	から	11	4	15	24292	3.061403525	2.254640398
14	に	1	34	35	139644	2.861848962	0.953832412
15	F	0	6	6	241	2.436758963	7.588016621
16] /	6	0	6	3976	2.239458284	3.543803916
17	産	0	5	5	972	2.179821561	5.313059048
18	(22	6	28	135790	1.971011145	0.672280665
19	動物	0	4	4	1615	1.895514475	4.258625007
20	地域	0	5	5	8468	1.746052899	2.190065998

表14 「ヤンバル」と共起強度のあることば（沖縄タイムス、MI値順上位20）

MI値順	Term	Before	After	Span	Total	T	MI
1	工高校郷土芸能部奥	1	0	1	1	0.999870606	12.91594346
2	！「	1	0	1	2	0.999741212	11.91594346
3	無惨	0	1	1	2	0.999741212	11.91594346
4	無銭	0	1	1	2	0.999741212	11.91594346
5] / ◆	1	0	1	6	0.999223637	10.33098096
6	逃避行	1	0	1	7	0.999094243	10.10858854
7	CASA	0	1	1	9	0.998835455	9.746018455
8	けふる	1	0	1	15	0.998059092	9.009052861
9	！」「	1	0	1	19	0.997541517	8.668015943
10	旋風	0	1	1	23	0.997023942	8.392381501
11	温い	1	0	1	29	0.996247579	8.057962462
12	粘り強い	1	0	1	30	0.996118185	8.009052861
13	著しい	2	0	2	72	1.407625904	7.746018455
14	? /	1	0	1	37	0.995212428	7.706490091
15	F	0	6	6	241	2.436758963	7.588016621
16	すばらしい	1	0	1	44	0.994306671	7.456511838
17	材木	0	1	1	46	0.994047883	7.392381501
18	鯉	0	1	1	47	0.99391849	7.361354605
19	謝敷	0	1	1	52	0.99327152	7.215503738
20	ならでは	0	2	2	105	1.40460656	7.201697939

表15 「山原」と共起強度のあることば（琉球新報、T値順上位20）

T値順	MI値順	Term	Before	After	Span	Total	T	MI
1	88	/	65	174	239	17097	14.46089393	3.95226548
2	104	「	256	1	257	35921	14.00769076	2.98593891
3	129	の	84	340	424	159625	13.5904951	1.55644761

4	42	咲く	180	0	180	545	13.37972293	8.51459493
5	48	船	0	165	165	724	12.79433184	7.97933058
6	28	嵐	0	92	92	183	9.57443307	9.12071637
7	70	鳥	0	84	84	2010	8.96709724	5.53219189
8	135	、	265	6	271	141046	8.72452426	1.08919706
9	137	。	176	1	177	102604	6.33939021	0.93373235
10	132	で	39	59	98	47099	5.60288254	1.20415529
11	56	路	0	30	30	377	5.41506597	6.46132413
12	19	タイガース	0	27	27	32	5.19059088	9.86774175
13	120	-	40	8	48	14179	5.07998814	1.90634858
14	65	学	0	25	25	463	4.91637454	5.90184206
15	1	GIANTS	0	23	23	23	4.79150049	10.11285425
16	37	暴力団	18	0	18	52	4.23157204	8.58233953
17	53	派	0	18	18	161	4.20837045	6.95186237
18	130	から	11	27	38	14594	4.02640233	1.52769402
19	87	女性	0	17	17	1090	3.88436322	4.11020467
20	51	牧場	0	15	15	118	3.8454687	7.1371018

表16 「山原」と共起強度のあることば (琉球新報、MI値順上位20)

T値順	MI値順	Term	Before	After	Span	Total	T	MI
15	1	GIANTS	0	23	23	23	4.79150049	10.11285425
38	2	茂成	0	6	6	6	2.44727765	10.11285425
89	3	ガラサー	0	2	2	2	1.41293641	10.11285425
90	4	クサティムイ	0	2	2	2	1.41293641	10.11285425
91	5	ナークニー・	5	0	2	2	1.41293641	10.11285425
92	6	水鶏	0	2	2	2	1.41293641	10.11285425
126	7	1542	1	0	1	1	0.99909692	10.11285425
127	8	1746	1	0	1	1	0.99909692	10.11285425
128	9	2554	1	0	1	1	0.99909692	10.11285425
129	10	6802	1	0	1	1	0.99909692	10.11285425
130	11	9221	1	0	1	1	0.99909692	10.11285425
131	12	サスケカブラー	1	0	1	1	0.99909692	10.11285425
132	13	ティーマートゥ	0	1	1	1	0.99909692	10.11285425
133	14	吹ける	1	0	1	1	0.99909692	10.11285425
134	15	大幸	0	1	1	1	0.99909692	10.11285425
135	16	江間	0	1	1	1	0.99909692	10.11285425

136	17	習	0	1	1	1	0.99909692	10.11285425
29	18	麗華	0	8	8	9	2.82555353	9.94292925
12	19	タイガース	0	27	27	32	5.19059088	9.86774175
26	20	屏風	0	9	9	12	2.99638767	9.69781675

表17 「山原」と共起強度のあることば（沖縄タイムス、T値順上位20）

T値順	MI値順	Term	Before	After	Span	Total	T	MI
1	119	の	199	961	1160	287636	25.23911227	1.949231429
2	26	船	1	284	285	1388	16.79608029	7.619233322
3	106	「	365	0	365	60350	15.80607841	2.533893569
4	28	路	0	202	202	1029	14.13706074	7.554391282
5	137	、	501	23	524	247229	11.61202572	1.021141611
6	131	で	63	136	199	74305	8.60589462	1.358660013
7	16	嵐	0	74	74	210	8.57683109	8.398414914
8	138	に	55	231	286	139644	8.28816724	0.971684341
9	139	。	331	5	336	180360	8.0546787	0.835004599
10	10	屏風	0	62	62	68	7.86101013	9.242693532
11	98	ぬ	7	61	68	8609	7.45593671	2.919039955
12	121	から	40	53	93	24292	7.01302288	1.874172223
13	105	へ	0	63	63	9251	6.72007052	2.70509338
14	82	島	0	53	53	3933	6.71592217	3.689713049
15	6	カーブヤー	0	44	44	51	6.62522021	9.690213342
16	126	や	47	51	98	31338	6.59254815	1.582291421
17	12	一郎	43	0	43	75	6.54549412	9.10065313
18	67	◎	35	0	35	1436	5.66259141	4.544650049
19	118	/	53	4	57	14047	5.60678534	1.958122652
20	60	学	0	33	33	843	5.59130991	5.228212364

表18 「山原」と共起強度のあることば（沖縄タイムス、MI値順上位20）

T値順	MI値順	Term	Before	After	Span	Total	T	MI
26	1	GIANTS	0	23	23	23	4.79082309	9.903207066
64	2	麗華	0	5	5	5	2.23373279	9.903207066
75	6	ヌカバチ	0	4	4	4	1.99791134	9.903207066
76	4	茂成	0	4	4	4	1.99791134	9.903207066
96	5	茂人	0	3	3	3	1.73024198	9.903207066
15	6	カーブヤー	0	44	44	51	6.62522021	9.690213324
22	7	タイガース	0	29	29	39	5.37760165	9.475785842

125	8	ほふる	2	0	2	3	1.4119982	9.318244565
126	9	健二郎	0	2	2	3	1.4119982	9.318244565
10	10	屏風	0	62	62	98	7.86101013	9.242693532
38	11	恒夫	0	12	12	20	3.45807217	9.166241472
17	12	一朗	43	0	43	75	6.54549412	9.10065313
37	13	嶽	13	0	13	24	3.5985998	9.018684283
41	14	義人	0	11	11	21	3.31001237	8.970321262
23	15	カブラー	0	26	26	58	5.08714054	8.745665789
7	16	嵐	0	74	74	210	8.57683109	8.398414914
128	17	美月	0	2	2	6	1.40978285	8.318244565
39	18	ガラサー	0	12	12	37	3.45294715	8.278716201
97	19	トガイ	2	1	3	10	1.72602137	8.166241472
130	20	長閑	2	0	2	7	1.40904439	8.095852144

共起語の分析の中で名詞に着目すると、共起強度のT値とMI値の双方が2.00を超える語では、「ヤンバル」の共起語として「路」や「産」、「舟」、「FC」、さらに「山原」の共起語として「船」や「GIANTS」、「嵐」、人名などが出現することが分かった。

5. まとめと今後の展開

5.1. 「ヤンバル」ということばの実態

「ヤンバル」という固有名詞の認知が外部、すなわち観光者に対しても高まるなか、観光客の認識する「ヤンバル」の範囲は「ヤンバル」が指し示す本来の範囲、さらには住民が認識する範囲とも乖離し、指し示す範囲にゆれがあることがあらためて分かった。

計量テキスト分析による「ヤンバル」の使用状況に関する調査では、2紙における使用状況と使用率の実態が明らかになった。その結果は、2紙における「ヤンバル」「やんばる」「山原」「yanbaru」「yambaru」の出現頻度と使用率に差はあったものの、新聞の種類による「ヤンバル」の使用率に有意な差はないことが分かった。また、「ヤンバル」ということばの実態を多角的に把握するため、「ヤンバル」と共起度の高いことばを計量テキスト分析で探索すると、沖縄や名護、米、琉球、日本という固有名詞の使用頻度が高いことが明らかになった。「ヤンバル」の共起語としては「路」や「産」、「舟」、さらに「山原」の共起語で「船」や「GIANTS」、人名などが高い共起強度を示した。

本研究の分析結果を、先行研究である伊藤・大谷(2017)による分析の表(表1)に追記すると表19のようになる。

表19 「ヤンバル」ということばの実態

調査、分析	対象	結果：「ヤンバル」の実態
文献調査	辞典、事典など	曖昧さ（～と思われる）
住民意識調査	沖縄県民（一部に観光客）	名護以北
建物名称による空間的認識	ゼンリン住宅地図	国頭・大宜味・東
生活行動調査	北部12市町村の住民	名護以北
観光客実態調査	北部地域に訪れた観光客	国頭・大宜味・東
計量テキスト分析による記事における使用状況	1998年～2016年における沖縄2紙の全文字列	新聞の種類による使用状況に差はない
共起度の高い固有名詞の頻度	沖縄2紙における「ヤンバル」が出現した記事の全文字列	沖縄、名護、那覇、国頭など
共起強度の分析		路、産、舟、船、GIANTS、闘牛名など

出所：伊藤・大谷（2017）を加筆・修正し作成

5.2. 観光客と住民が認識する「ヤンバル」という固有名詞の意味

伊藤・大谷（2017）において、観光連携政策の展開の前提である地域側の認識および実態としての地域範囲があいまいな状態では大きな連携効果が期待できないという観光政策的意義を明らかにした。また、本研究で明示した観光客が認識する「ヤンバル」の範囲は、観光客が捉える観光の価値に関係しているのではないだろうか。

「ヤンバル」ということばの認知が進むにつれ、山里（2016）が指摘するように、自然、環境、地球を基軸とした価値観の大転換によって辺境から最先端への意味変容が生じていることも、生物相という価値から捉えると整合性があるといえるだろう。価値が高まった「ヤンバル」は、その付加価値を吸収するため、そして魅力を訴求するための宣伝活動や露出によって観光客に特定の範囲を認識させてしまっている。首里や那覇からみた「ヤンバル」という意味に鑑みれば、都市部の拡大や価値の変容によって本来の未開、すなわち自然が豊かな地域を指し示すことばとして認識されているのかもしれない。

さらに、須藤（2008）の研究に関連するが、観光客の志向や考え方が受入れ側の地域の住民にも影響を及ぼすことは十分に考えられる。観光客の認識する「ヤンバル」の範囲と意味が観光化され、価値などの「イメージ」が現実になってしまふ現象が生起することは想像に難しくない。

5.3. 今後の展開

本研究および伊藤・大谷（2017）で述べたように、「ヤンバル」ということばが指し示す意味範囲にはゆれがあり、さらに今後は意味や価値までも変化、変容していくことが考えられる。そこには、地域住民や観光客が「ヤンバル」を認識

する境界線、「ヤンバル」ということばの使われ方や共起など、さらなる実態を可視化していく意義があるといえる。

今後は、「ヤンバル」が国立公園や世界遺産候補として取り上げられる近年の状況を鑑みて、生物相や観光資源化が「ヤンバル」の指し示す範囲や意味に影響を与えているという仮説を追究して研究を行う⁽²⁾。共起ネットワークなどによってことばの実態を可視化する計量テキスト分析についても新聞2紙以外に通時的かつ少量でないテキストデータ候補があればそれを取り入れ、引き続き多角的、学際的な調査が必要である。

註

- (1) Web調査は対面式アンケートと比較して統計学的根拠や精度についての指摘もあるが、通年での対面式観光客調査は時間と費用の観点から困難であり、Web調査は次善の策という側面も持っている。
- (2) 2018年3月6日付沖縄タイムス電子版「マンガース捕獲大幅減、ヤンバルクイナの生息域拡大 2017年度国・沖縄県事業」に、「ヤンバル」の範囲についての記述があった。下記の用例から、大宜味村中部を「ヤンバル」の南側としていることがわかる。
マンガースが捕食するヤンバルクイナの推定個体数は1473羽（速報値）で、大宜味村中部などやんばる地域の南側への分布拡大も確認された。

引用文献

- 石田基広 (2017) 『Rによるテキストマイニング入門第2版』 森北出版
- 石田基広 RMeCabUni ベータ (バージョン0.01) <https://sites.google.com/site/rmecab/home/unicid> (2018年3月22日閲覧)
- 伊藤孝行・大谷健太郎 (2017) 「ヤンバル小考」『沖縄文化』第51巻1号、pp.31-46
- 須藤廣 (2008) 『観光化する社会－観光社会学の理論と応用－』 ナカニシヤ出版
- 北部広域市町村圏事務組合 (2017) 『平成28年度やんばる観光連携推進事業 実施報告書』
- 盛口満・宮城邦昌 (2017) 『やんばる学入門 沖縄島・森の生き物と人々の暮らし』 木魂社
- 山里勝己 (2016) 「<切っ先>としての「やんばる」－場所の視点から」、名桜大学編『文学と場所』名桜大学やんばるブックレット①、pp.5-20、沖縄タイムス社